



感染性胃腸炎が発生してしまったら...

冬季はノロウイルス、ロタウイルスなど様々なウイルスによる感染性胃腸炎が流行します。これらのウイルスは非常に感染力が強く、多数の人間が集団で寝食をともにする施設では1人の患者から他の人へ二次感染を起こし、あっという間に集団発生を起こすことがあります。



二次感染をいかに防ぐかが重要です！！

感染性胃腸炎では、患者の吐物やふん便から大量のウイルスが排泄され、それらの処理にあたった職員が感染したり、施設中をウイルスで汚染してしまい、結果的に感染を広げてしまうことがあります。(二次感染といいます。)

集団発生を防ぐためには、二次感染をいかに防ぐかが重要です。

二次感染が起こる仕組み



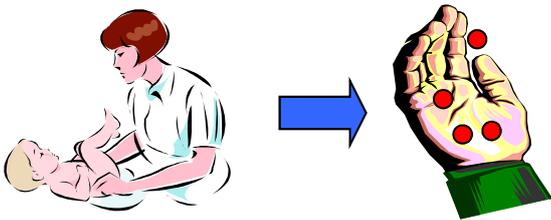
二次感染を防ぐための4か条

◆感染性胃腸炎が発生したら

- 一. 患者から他の人に感染させない体制をとること。
- 二. 吐物やふん便は確実に消毒すること。
- 三. 患者の看護にあたる職員は感染予防に努めること。
- 四. 施設の消毒を一定期間継続すること。

一. 患者から他の人に感染させない体制をとること。

ウイルスはふん便・吐物中に出てくる！



患者の吐物やふん便からは大量のウイルスが排泄されます。

よって、他の人に感染させないためには、吐物やふん便に触れることによる感染リスクを回避することが重要です。

- ①感染者は個室管理にするか、個室隔離が困難ならば無症状者と接触させないこと。
※多数の患者が出た場合は症状のある人同士を同室にする
- ②患者の利用するトイレを固定する。
- ③施設利用者の入浴は症状の無い方から先に行く。また、患者の入浴はシャワーのみとする。



感染性胃腸炎を起こすノロウイルス、ロタウイルスは環境中で長期間(1ヶ月以上)生存するため、患者と同じ部屋や同じトイレを使用することでウイルスに感染するリスクが高くなります。

二. 吐物やふん便は確実に消毒すること。



消毒には次亜塩素酸ナトリウム(市販の漂白剤)を希釈して使用します。

用途に応じて希釈濃度を変えて使用しましょう。



ウイルスの消毒は初動対応が全て!!

作り方

5%次亜塩素酸ナトリウムの場合



ペットボトル1本分(500mL)



キャップ4杯弱(100mL)



キャップ1杯弱(20mL)



0.5%消毒液(5000ppm)

嘔吐物やふん便の処理

0.1%消毒液(1000ppm)

便所等、特にウイルスに汚染されるおそれが高い場所の消毒

0.02%消毒液(200ppm)

・食器や調理器具の浸け洗い
・流行シーズンにおける定期的な施設の消毒 など

◆使用上の注意

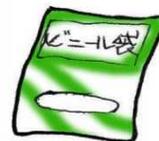
- ・皮膚刺激性があるのでビニール手袋・マスク・エプロン等を着用して使用する。
- ・金属に使用するとサビが出るので、使用後は水拭きをしておく。
- ・光で分解されるので、保存するときは冷暗所で遮光して保存する。また、誤飲防止のため、必ずラベル等をしておくこと。(ペットボトルや一升瓶で保存しないこと)



★次亜塩素酸ナトリウムの使い方でもう1つ注意!

次亜塩素酸ナトリウムは施設や器具などの消毒に使用するためのもので、手洗い用の薬剤ではありません。手に付くと手荒れを起こしてしまい、その結果、手のキズにウイルスが入り込んでしまい手洗いでウイルスを除去しにくくなってしまいます。使用するときは必ず手袋を着用しましょう。

手袋、マスク、エプロン等を着用し、ペーパータオル、汚物用ビニール袋を用意する!



窓は開放しておきましょう。

消毒する際の原則

① 汚れの除去



② 加熱



③ 塩素による消毒

まずは汚れを取り除く!
汚れが残ったままだと塩素が効きません。

加熱消毒が可能なものであれば、加熱すること。
加熱消毒ができない場合に塩素消毒を考慮すること。

★ポイント

汚れを除いてきれいになってからが消毒のスタート!!

①ふん便や吐物の取扱い

吐物や便のまわりに、片付ける以外の方が近づかないようにしましょう。

5000ppm消毒液を浸したタオル等で覆い10分以上放置した後、拭き取ります。

拭き取った後の床は、1000～5000ppmの消毒液で拭きます。その後、濡れタオルでふきます。

ビニール袋に入れ封をして捨てます。

直ちに片付ける場合、1000ppm消毒液を浸したタオル等で拭き取りビニール袋に入れます。

汚物を取り除いてからが消毒のスタート!

②おう吐物・ふん便が付着した衣類・シーツ・タオルなど

ビニール袋に入れておく

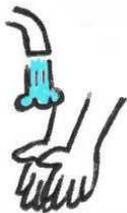
吐物や便が付着していればペーパータオルで除いておく。そのペーパータオルはビニール袋に入れ捨てましょう。

85～90℃で90秒以上の加熱又は、1000ppm消毒液に30分浸漬した後、他の物と分けて洗いましょう。

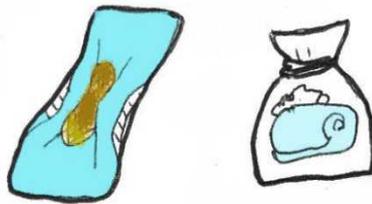
※色落ちするので注意

③紙オムツ

取り替え前に手洗い



紙オムツは、取り外した後、直ちにビニール袋に入れます。



取り外し作業後にも必ず手を洗いましょう。



④トイレの部座・ドアノブ・手すり

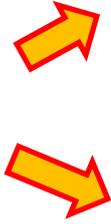
トイレのドアノブ・便座、施設の床・手すりは、定期的に清掃し、1,000ppm消毒液を浸したタオルで拭き、その後、濡れタオルで拭きます。



部屋は、定期的に換気しましょう。

三. 患者の看護にあたる職員は感染予防に努めること。

多数の人間と接触する職員は感染の媒介者になりやすいので注意！



しまった…
自分も感染性胃腸炎に..



感染したことに気付かず
仕事を続け、他の人に
ウイルスをばらまいて
しまうことも…

患者の看護、介助をしているうちにウイルスに感染してしまう

- ①手洗いの徹底(1ケア1手洗い)
- ②職員が感染症の症状を呈した場合、症状が改善するまで就業を停止する。
- ③个人防护具を適正に使用する。(手袋、エプロンなど)



吐物やふん便の処理をするときは手袋・マスクなどで完全防備を！



感染予防には手洗い！
ウイルスは手指を介し口からしか体内に入りません。
様々な場面でよく手を洗うことが重要です。

四. 施設の消毒を一定期間継続すること。



別に用は無いけどしばらく居座ることにするか…

感染性胃腸炎では症状がなくなった後もしばらくの間、ふん便中にウイルスの排泄が続きます。(2~4週間)

つまり、患者の発生が止まった後も、施設内(トイレなど)にはウイルスがいることを考慮して、施設の消毒を続ける必要があります。



ドアノブ・手すりなど人の手が触れる場所や、便所・浴室などウイルスに汚染されるおそれのある場所は次亜塩素酸ナトリウム1,000ppmで消毒を続けましょう。

なお、施設の消毒を開始しても1~2日は患者が発生することがあります。

最後にもう一度！

感染性胃腸炎が発生したら....

- 一. 患者から他の人に感染させない体制をとること。
- 二. 吐物やふん便は確実に消毒すること。
- 三. 患者の看護にあたる職員は感染予防に努めること。
- 四. 施設の消毒を一定期間継続すること。